

幼 兒 教 育

第 二 十 三 卷 第 四 號



日 本 幼 稚 園 協 會

目次

表紙繪(リヒター)

卷頭

幼兒の美的陶冶

小學校から幼稚園への希望

幼稚園から小學校へ

幼兒最初の學校生活

幼稚園附屬設備について

英國保育學校令竝に訓令「社會と教化」より

四月の園藝

お子さんを初めて幼稚園に送る方へ

幼稚園のゲーム

幼稚園要目

阿部重孝

堀七藏

倉橋惣三

山内俊次

馬場定一譯

竹島茂郎

倉橋惣三

土川五郎

幼 兒 教 育

第 二 十 四 卷 第 四 號

三

一人の尊嚴

人間は一人として迎へられ、一人として遇せらるべき、當然の尊嚴をもつて居る。たゞに、人間ばかりでなく、宇宙の一物と雖も、もの皆個體の存在をもつて居るのであるが、人間に於て、特に其の尊嚴をもつ。

之れは、必ずしも、心理學的にいはるゝ個性の別といふ意味ではない。個性は相對的のものであつて、一人の價値は其の個性の價値であるが、人間の一人は絕對のものである。各個の人間が銘々に有する、神聖なる尊嚴である。すなはち、すべての人間は、其の個性を尊重せられる權利をもつと共に、先づその前に、一人として迎へらるべき尊嚴をもつて居る。

此の意味に於て、一人を一人として迎へないことは、人間の尊嚴を冒すことである。一人の一人たることを忘れるのは、人間に對する最根本的の無禮である、

今われ等は、新らしき子供を迎えた。一團の新入園兒を迎えたのでもなく、一組の新入學生を迎えたのでもない。われ等の迎えたものは、その一人々々である。一人一人が、人間としての一人の尊嚴をもつて、われ等の前にあるのである。

一人々々たることを忘れるのは、人間に對する、すべての誤りの出發點である。一人々々たることを無視するのは、人間に對するあらゆる罪の基である。

幼きが故に、一人の尊嚴に、一毫のかわりもない。

(倉橋生)

幼兒の美的陶冶

帝國大學助教 阿 部 重 孝

近頃になつて藝術教育といふことがやかましく論ぜられるやうになつて來ましたが、その所謂藝術教育といふのは、多くの場合比較的年長の兒童に就いてはれることでありまして、幼兒に就いての研究は甚だ幼稚のやうに思はれます。従つて纏まつたことを申上げることは、私としては不可能であります。が、二三心に浮ぶまゝを記してみようと思ひます。

一般に藝術教育といふ場合には、その所謂藝術なるものは大人の立場からいふ藝術であります。そして大人の立場からいふ所の藝術にまで兒童を導くといふことが、藝術教育の一つの重要な目的と見做されてゐるのであります。尤もこゝにいふ見解には多少の異論がありませう。即ち藝術に關する大人の見解を兒童に強ゆることは正當でないといふ論もありませうが、暫く之を問題外として、一般の見解に従ひますと、斯くの如き藝術的陶冶は先づ兒童室から

始められねばならないといふ要求が起つて參ります。併し乍ら、このことは兒童をして早くから藝術的活動をなさしめねばならぬといふことを要求するものではありませぬ。唯早くから藝術に至る準備をなさしめることが、望ましいことであるといふのであります。

凡そ兒童の生活に於て經驗した所は、一つとして兒童の後の生活に對して意義を有たぬものはありません。道徳的品性が之に適應せる環境に於てのみ發達し得ると同じやうに、藝術心の發達にも之に適切なる環境が必要であります。趣味は吾々の美的良心であります。人は道徳的態度に慣らされると同じやうに、美的態度にも慣されねばなりません。それでありますから、兒童が成育して行く環境即ち彼等の居室の内外の設備は、彼等の趣味の陶冶に重大な意義をもつものであります。この意味から、藝術的陶冶は兒童室から始まらねばならないといはれるので

あります。

と申しましたも、凡ての児童が必ず児童室をもたねばならぬと要求するものではありません。凡ての児童がよい児童室をもつことは理想としては許されましたも、現實の社會事情は決して之を許してくれません。それですから、吾々は児童の父兄が出来る範圍の内に於て、児童の環境を美的に整頓してやることを以て満足しなければなりません。又たとひ児童の爲めに児童室が與へられる場合でも、最も悪い室を児童室に選ぶといふことは、全然誤つた見解であります。それと同時に、児童室に多大の費用をかけて、それが爲めに贅澤に陥るやうなことがあれば、それも誤つた方法であります。児童室は何も貴い藝術品を以て飾り付ける必要はありません。純潔で強固で児童の生活に適してゐるものであれば、それで澤山であります。併し乍ら、壁に二三枚の美しい繪をかけることは、最も望ましい事柄であります。なせなれば、児童の眼は之によつて、無意識の中に陶冶されるからであります。但し餘り多くの繪をかけることゝ、間に合せ物をつけることゝは戒めねばなりません。児童室に於ける器具は單純なものがよい、

そして有害でない範圍内に於て、之に色彩を施すことも好ましいことであります。壁の色や器具の色や壁にかけた繪の色や敷物の色などが、よく調和してゐるならば、それが児童の色彩感覺の發達に功のあるのは勿論であります。

二

次に問題になるのは繪本でありませう。繪本は大人が児童に與へるものゝ中で、最も重要な藝術品であると主張する人のある如く、児童の藝術心の陶冶には必要な方便であります。嫌らしき内容や生氣のない色取りや或ひは毒々しき色取りのしてある非藝術的の繪本は、先づ吾々の家屋から驅逐せられねばなりません。劣悪なる繪本が児童を害する事多いのは今更論するまでもありません。それですから、児童に與へる繪本は完全なる藝術品でなければなりません。即ち一つ一つの繪が藝術的であるといふばかりでなく、繪本が全體として立派な藝術品でなければなりません。この場合、描畫が單純で明瞭なことゝ色彩の鮮明であることゝは、頗る重要な條件であります。更にその繪本は児童を眞に愛し児童と共に遊び得るやうな藝術家の手によつて、統一

的に作られたものでなければなりません。

ここの出来るやうな繪本が、我が國に殊に少いことをなげかはしく思ひます。そしてそれと同時に、繪本の選擇に關して父兄に重大な責任のあることを感ぜずにはゐられません。なせなれば、自然のまゝに放任された兒童におきましては、繪本の形式的の美よりも寧ろその内容に多くの興味をもつものであります。従つて兒童の好んで選擇する繪本は、必ずしも藝術的の繪本ではありません。我が國に非藝術的の繪本の餘りに多數であるのは、一つは繪本の選擇が多くの場合兒童に委ねられてゐる結果ではありまじまいか。何れにせよ、繪本によつて美的陶冶をしようといふ場合には、父兄の細心なる注意が必要であると思ひます。

既に一つの繪本を選擇して之を兒童に與へた以上は、父兄は兒童と共に之をみなければなりません。そして一つのページをみた後で、その事物の配列及び、色彩に關して問ひを出して、兒童をして記憶によつて之に答へさせるのはよい練習であるといはれてゐます。併し乍ら、その場合美や醜の何たるかを

兒童に教へようとするのは、決して策の得たるものではありません。なせなれば、それ等のことに關しては、兒童は興味も理解もたぬからであります。

三

兒童をして早くから自然に親しませることも、美的陶冶の上からみて、重要なことであります。自然に就いて見ることを學ばせることは、藝術教育の豫件であり、又その最初の段階であります。自然は永遠に新鮮なる汲めどもつきることなき藝術の源泉であります。そして凡ての藝術家は皆この泉を汲むのであります。それですから、自然と兒童との間の親しみは、後々に於ける兒童と藝術との間の關係に對する最善の基礎を與へるものであります。即ち自然に就いて多くの記憶心像を有つてゐる者は、藝術を理解し、自然の美しさを藝術品の中に於て再び經驗するといふことが、他に比して一層容易になるのであります。併し乍ら、兒童は未だ全體の景色の美しさを感得する眼をもちません即ち、最初は寧ろ個々の物に對して、精密の觀察を行はせるがよいといはれてゐます。それが爲めには、父兄は兒童を散歩に伴れ出して、早くからこの點に注意させることが出

來るのであります。殊に大都會の小供は往々にしてその感覺が鈍り勝でありますから、先づ自然に就いて、形と色とに關する感覺を覺醒させることが、彼等を藝術に導く豫件として極めて重要なことでもあります。

かういふ風に考へて參りますと、幼兒の美的陶冶に就いて尙多くのことが考へられます。例へば、兒童の生活に於て重要な部分を占めてゐる遊戯は、美的陶冶の方面からみて重要な問題であります。又遊戯と關連して玩具も亦當然問題としなければなりません。又更に進みましては、幼稚園に於けるお細工や唱歌やダンス等にも及ぶべきであります。それ等の問題は後日に譲り度いと思ひます。

○ 法律はなほ胃の腑の如し。痛むときだけ其の存在が認められる、と謂ふた學者がある。

○ 「すべてを理解するとは、すべてを許すことである。」
之はマダム、ド、スタエルの語。

○ 「吾人が或物を理解したとき、吾人はそれを非難する事が出来ない。」
之はゲーテの語。

○ 誰やらの書いたもの、中に、田舎の小供が東京へ來て、東京はつまらない。と云たといふ事が書いてあつた。何故かと聞いたら。東京には鯉が居ないからと云た。着屋から鯉を取り寄せて廻りにのせて見せたら、そんなものは鯉ではないと云たとやら、まことに其の小供の意味する鯉には、青い森、赤い鳥居、清らかな流れ、白い小石が附いて居なければならぬのである。其の鯉といふ言葉には、複雑な背景が豫定されて居るのである。大人は其の背景を知らないの、廻りの上の鯉も亦鯉に非ずやなどと云ふのである。

○ 「心の花」法律家の手帖からより

小學校から幼稚園への希望

東京女子高等師範學校附屬小學校主事代理

堀 七 藏

一、子供の生活

幼稚園に於ける幼児の生活が成るべく子供らしくありたいと思ふのであります。御承知の如く子供には大人と著しく異つた特性があります。活動性に富み物の五分間と静止してゐることが出来ません。それを大人のやうにお行儀よく躰けんとするのは甚だ面白くないと思ひます。小學校でも幼稚園でも幼児を大人の如く行儀よく生活せしめんと企てることは禁物であると思ひます。また幼児は變化を好みます。單調なものにすぐに倦いて長く一つの物を見たり聞いたりして居る事は出来ません。それを大人の如く一事物に専心させやうと望むことも小兒の本性を無視した取扱ひと考へます。それで私は幼児には大人の生活を無理強ひせず、子供の生活を成るべく長くさせることが肝要であると考へてゐます。

二、作業の尊重

小學校の如くいろいろの知識を授けることを幼稚園の仕事と考へたくない。幼稚園では幼児の活動性を利用し打つこと撫づることを好む特性に基いて手足を動かす作業を盛に課することが必要だと思ひます。その間にいろいろの事物の明白なる觀念を得、身體は強健となるのであります。

三、自然物の玩具

幼児が作業する時に必要とする材料は人工的のものよりも自然物がよい。いろいろの出来上つた玩具を與へるよりも、棒切れや板屑や小石・砂・泥又は木葉等、いろいろの自然物を材料として活動し作業するやうになりたい。それ等自然物を取扱ふ間に數量の觀念は自然に發達し、事物の觀念は明白となるのであります。いちぢるな、こわすな、ながめて居れといふが如き玩具は須らく幼稚園から排斥したいと私は考へてゐる位であります。

四、根掘り葉掘り聞く

物を穿鑿して色々なことを根掘り葉掘り細かく聞きたがるのは幼児の本性であります。之を利用し發展せしむることは幼稚園に於て誠に重要であります。私は幼児にいろいろの事柄や文字文章などを強ひて教へる必要がないと思つて居りますが幼児が疑問を起している／＼の事柄を尋ねるならば相當に之を取扱ふことが大切であると思へます。いろいろの事を幼児が尋ねるので父母や教師が之を面倒としてよいかげんの返事をしたり誤魔化したりすることは感心出来ません。成るべくその疑問を幼児自身が事物を観察して解決するやうにヒントを與へることが肝要であると思へます。それで私は幼稚園の教科書は自然物自然現象である。之をよく観察せしめ之を利用している／＼の作業をなさしむることが幼稚園の主要なる任務とさへ考へてゐます。而して幼児の疑問はその課程であると信じてゐます。幼稚園で文字を教へる必要は殆どありません。また抽象的な計算を特に教へる必要もない。幼児が生活の必要上よりいろいろの疑問を起して自發的に研究せんとするな

らば之を無理に抑へることの不都合は勿論であります。

五、破壊を好む

幼児はその本能として事物を破壊することを喜ぶのであります。どんぼの翅を千切つたりイナゴの脚をムシつて喜ぶのは幼児が有する本能であります。之を真正面から抑壓し幼児をしかり飛ばすことは面白くない。之を善用してやらねばならぬ。このことは幼稚園に於ける訓練上主要なことであると思へます。

六、模倣性の利用

幼児が模倣性に富むことは今更説明するまでもありませんからこの時代に於て父母教師は努めて善良なる模範を示さねばならぬ。成るべくならば同年齢者の良模範を利用せねばならぬ。言語でも動作でもこの時代に充分注意せねばならぬであります。私共が小學校に入つた児童を見て常に感ずることはない／＼の文字を知つてゐるものでも甚だ發音が不明瞭である事であります。幼稚園の保育に於て正しき

發音をなさしむるやう指導することが非常に肝要であります。

要するに私は幼稚園が小學校の教育の下への延長であるといふ考を取除きたいと考へます。勿論幼稚園に於て良好なる保育を受けたものは小學校に入學しても充分その智能を啓發し得るのでありますが、小學校時代に容易に修得せられる知識を豊富に教授することを任務と考へてはならぬ。幼稚園はどこまでも幼児の生活を充分になさしむる工夫が肝要であると考へます。

單純と無邪氣とを基礎とする智識と力とは如何なる地位に在る人に對しても、あらゆる輻軻落魄の子に對しても、地位向上の爲にかくべからざるものたると同時に又十二分の惠福なり。

(メスタロツチ)

奴隸の幸福を超越し、神々と

崇拜より解脱し畏なく、怖ろしく、偉大にして孤獨。

之實に誠者の意志なり。

(ニイチエー)

幼稚園から小学校へ

—幼稚園と小学校幼年級の眞の聯結— 倉 橋 惣 三

一、幼稚園と小学校との關係

小學校と幼稚園との關係と云ふことに就て色々な問題がある。しかも、其れが今日必ずしも理想的に滑かに行つて居ない問題であります。それに就て事實上の解決を考へる前に、先づ氣のつくことは、今日の我が國で行れて居るやうな小學校と幼稚園の關係に於きましては、之を材料として幼稚園と小學校との關係を考へて行くこと云ふことは餘程困難であります。従つて小學校の方からは幼稚園を責めると云ふやうなことになる易いのであります。其結果として、幼稚園の方の人々は幼稚園の教育は小學校の教育に對して直接の準備をして居るものでないこと云ふ様なことを言つて見たりするのであります。私共も時にはさう云ふ言葉を使ふこともある。幼稚園教育は兒童生活の一般的の教育をして居るだけのことであつて、小學校の豫備教育として小學校の準備

教育としてして居るものでないこと云ふのです。其の意味は、我々の幼稚園は今日あるがまゝの小學校教育法に這入るのに都合の宜いやうに、詭へ向きに、注文に應じて教育をして行く所ぢやないこと云ふ斯う云ふ意味なのです。併し、特にそんなことを言ひ出す必要のない時、もつと平たく考へて見ますならば、幼稚園の時期から小學校の時期に繋つて行くこと云ふことは當然のことであり、又幼稚園を出た子供は悉く小學校に這入ると云ふことも明瞭なことでありますから、幼稚園の教育は小學校の教育に無關係、無頓著だといふのは、甚だ奇妙なことになるのです。矢張有らゆる意味に於て幼稚園と云ふものは小學教育の基礎となり準備となること云ふことは極めて當然なことであります。然るに、往々議論が起るといふのは、詰り幼稚園と小學校の關係を餘りに區別して居ると云ふ所から起つて來る結果でありませう。實際問題として、子供の個人の發達から言つても、或

は子供の教育全體から見通して云ひましても、幼稚園と小學校は決して離れて居るものでないのでありますが、併しそれを色々のことで離して居る爲に、斯う云ふ風な問題が起つて來るに過ぎないのです。

二、幼稚園と小學校との

結びつけ方

そこで幼稚園と小學校とを離さないで結付けて行かうとするには二つの方法がありませう。一つは教育行政の上から教育系統と云ふものを立て變へることでありませう。それから一つは教育の行政に於ける系統は必ずしも幼稚園と小學校とを一つに結付けなくても、其教育の方法に於て其關係を見出して行くこと云ふことです。先づ其行政的教育系統の方から考へて見ますならば、幼稚園を小學校と同じ教育系統の中に完全に置かうとするには幼稚園を義務教育としなくちやならぬと云ふことになる。これは、よく主張する人もあり、私共も趣旨としては勿論賛成、賛成といふよりも進んで主張することですが、今日の實際問題としては、幼稚園を義務教育にすると云ふことは實行の點から困難があります。一つは國の

教育經濟の問題即ち教育費の問題であります。今日の有らゆる國の普通教育問題として、所謂義務就學年限を上と下とへ延ばさうといふことがある。教育の進歩はおのづから此の問題を惹起するので、我國の目下問題になつて居る八年制論は詰り、六年の義務教育を上へ延長するのです。ところで、之れは、國民教育上何よりも急務とする必要で、一體、今日の文明國で、六年制にやめて居るのは、我國だけと言つていゝのです。之れは、どうしても、一日も早く實現しなければならぬ。ところが、それには可なりな經費を要します。それが我國として、相當大きな問題であることは、よく御承知の通りです。

さう云ふ今日の現状でありますからして教育を下へ延して行くこと云ふことに於て、理論としては、其見る所に依つて何方が必要かと云ふ一概な比較論は出來ないのでありますけれども、今日目下の時代の必要から見て、幼稚園と云ふものが、義務教育の中に本當に這入ると云ふことは、そう／＼急速には實現の六かしいところがありませう。そこで、義務教育にしないので、今日よりも幼稚園を發育させて行く方法、即ち幼稚園の社會的普及と充實を計つて行くこと

云ふ餘地はまだ幾らもある譯でありますが、我々の目前の努力はそこにあるのぢやないかと思つて居ります。

三、八歳までの一系統

先づそう云ふ風な譯で教育行政の上で之を義務教育にして行かうと云ふことは、我々の希望する所ではありませんけれど困難な問題で、殘る所の問題は即ち

教育の方法を、或は教育の本質に於て、即ち外的の結付けでなく、內的の結付けをして行かうと云ふことになります。其內的の結付けをして行かうと云ふことになり、是は悉く是認された問題と云つて宜い。

コロンビア大學とシカゴ大學の初等教育のやり方などはそれを當然のこととして解釋して居る。教育管理の上からは小學校と幼稚園とは分れて居りますけれども、併し其中の教育の内容に關しては、小學校の幼學年の一二年のクラスと云ふものは寧ろ幼稚園の方に附著して居るやうな、或は幼稚園が、此方に附著して居ると云つても宜いのでありますが、實際の形に於ては幼學年は小學校から離れて幼稚園と一

緒になつて居ると云ふやうな形をして居る。設備の仕方から云ひましても先生の働き方の上から云ひましても、其學校内の教育系統としては、一つ系統に置かれて居ります。當に此二つの大きな大學の幼稚園でやつて居るばかりでなく普通の師範學校にあります所の幼稚園に於きましても、少し進歩した所では二年までは行かなくても一年は幼稚園と非常に密接な關係を以てやつて居る所が多い。

それから亞米利加に幼稚園普及協會と云ふものがあります。ワシントンに其本部があり。シカゴの近くのドーナーグロブといふ處の幼稚園は其の協會でやつて居る所がありますが、其幼稚園普及協會と云ふものが初め亞米利加に立ちました目的は會の名のあらはず通り幼稚園の普及と云ふことであつた。

幼稚園と云ふものを成るべく多く色々の所に建て、行かうと云ふ目的であつたのです。所が今日は幼稚園を數に於て普及して行かうと云ふことは亞米利加ではもう必要がない問題になつて來た。そこで寧ろ幼稚園的な教育の本質、或は幼稚園的教育方法とでも云ふものを小學校へ普及して行かうと云ふ意味に於て、其普及と云ふことの目當てが變つて來ました。

其の幼稚園教育の本質方法は何處に普及するかと云ふと、それは色々の所に其普及の餘地が残つて居る譯であります。差當り幼學年の所に普及して行かうと云ふのです。幼稚園其もの數を殖す爲に起つた幼稚園普及協會が、小學校の中に幼稚園をどう入れて行かうか、幼稚園教育法と云ふものをどう小學校に擴げて行かうと云ふ風に目的を變へて來て居るのであります。其結果ドーナツグロブでは尋常一二年と幼稚園とを結びつけた一つの學校を(?)建て、居るのです。そういふのが彼方此方に來出て居ます。ところで、此處の二年までしました所の子供は何處へでも自分の近所の學校の三年級に容易に結付けると云ふ機會が出來て居る。私共は初め其關係が非常に何だか難かしいことのやうに思へて、これは非常に良い考だが此處で二年までやつて三年以上を御やりにならないと、子供はどうなるのですかと云ふことを私は非常に何か大問題のやうにして聞いて見ると、向ふの人には私の問ふ心持ちが能く分らない。何故分らぬかと云へば私がそれを六かしそうな問題にして居ることが分らない。二年が濟んだら何處の學校だつて其年になつて居るものは其年の子供とし

て受取るのは當前ではないかと云ふ風ならくなくことに考へられもし、行はれもして居るのです。我々の社會で斯う云ふことをしたならば入學試験を屹度しませう。のみならずあんな自由な幼稚園なんかのやり方でやつて來た子供は更に一層嚴密に試験をしなくちやならぬと云ふ譯になりませう。話が一寸、それでしたが、此一二年と幼稚園とを結付けるのは、即ち三歳から八歳までの教育を一つの教育區分に立てたことになる。教育の區分を三歳から六歳までにしないで、八歳までにすると云ふことの傾向は是は今日亞米利加に於て立派に認められて、もう議論時代ではありませぬ。例の幼稚園雜誌といつて居た雜誌が「幼稚園及び初年級」と云ふ名稱になつたのも、もう古いことでありますが、さう云ふものを我々が讀んで居つた時に、一つの改良意見だと思つて居つた所が今日亞米利加では既に事實上のこととして承認され實行されて居るのである。萬國幼稚園協會が幼稚園保育綱要を書いて居ります時にも、矢張り八歳までと云ふことにして書いてある。即ち八歳まで適用される方法であるとして、其ことを考へて居るのであります。

シカゴ大學の幼稚園では、幼稚園から廊下傳ひに小學校の一二年の教室がありました、さうして幼稚園の方へ這入つて見ての感じと、小學校幼年級の組へ這入つて見ての我々の感じと云ふものは全く違はない。其子供の數の關係も、或は設備の様子も、或は其中で子供の色々やつて居ります生活の有様も、或は其中の裝飾も、ちつとも變らない。それから三年四年邊りの教室に行つても、我が國のやうにきちんと机を置いてさうして他に動いてはいけぬと云ふやうなやり方でなく、亂雑な、此方に彼方に作り掛けのものが、置いてあつたり、まあ仕事場のやうに教室は出來て居るのですが、一二年の方になると全く幼稚園と同じやうな趣を備へて居る。我が國では幼稚園の方が小學校と同じやうな形を備へて居りますから、矢張能く似て居ると云へば能く似て居るのでありますが、それがまあ逆に行つて居るのです。

コロンビアの方はもつと徹底しましてし、ミス、ヒルの監督の下に、一二年の組が出來て居りますが、之は全然似て居ると云ふよりも同一の、殆ど同一の仕組で其部屋が共通に使つて居ると云ふやうなやり方をしてある。此方でも先生は始終往復して居りまして、

尋常一二年の先生は三四年の先生と話をするよりも幼稚園の先生と話をする機會が多い位です。雙方の先生がそう云ふ風に懇意であるばかりでなく、幼稚園の先生は二年まで持ち上るのでありますからして、詰り教員の配當といふものが、同一組織のもとに行はれる。

四、初年級の革新

教育の方法に就きましては、シカゴの方もコロンビアの方も、所謂「プロヂェリトメソッド」を執つて居るのでありますからして、從來の學習的方法でなく暗記的方法でなく、従つて幼稚園に於ける方法と、小學校の一二年に於ける教へ方とその態度としては違つて來ない。勿論四歳の子供のプロヂェクトと七歳の子供のプロヂェクトは其子供自身の能力の發達に依つてプロヂェクトの仕方が、違つて參ります。

内容的には幼稚園と小學校とは勿論程度違つたものになつて來ますけれども、併し其取扱方としては、矢張或る一つの目的を立て、其目的に向つて問題を解決して行く。或は單に抽象的な問題を解決するばかりでなく、具體的解決、即ち製作と云ふものをさ

せて行くこと云ふやうなことに於ては、幼稚園と小學校と云ふものは少しも違はないのであります。コロンビアの尋常一年を可成り續いて見ましたが、殆ど机を並べて其腰掛に皆一緒に腰掛けて、さうして先生から本を教へられて居ると云ふやうな形と云ふものは殆どないのであります。部屋の中をちよつと見ると、極めて亂雑な、そちらの隅の方に机があつたり椅子があつたりするやうな亂雑な仕方であつて、大工道具や木の切れがあつたり、色々のものがそこにあります。そこで子供は色々自分の作業をして居る。之は丁度我が國に於ても少し進んだ小學校でやつて居る有様であります。所謂自由作業の時間と同じことを平常にして居るのであります。我々が外から見ましてさう云ふ形を備へて居るのでありますからして、子供の方から見ますならば幼稚園の部屋に居ります時も、尋常一年の部屋に這入つて行く時も自分の生活形式と云ふことを變へて行く必要はない。我國の様に、幼稚園に於けるあの自由な態度を、小學校に於ては所謂受身の學習的態度に自分が、變へて來なくちやならぬと云ふ必要は子供の方にもないのであります。

従つて抽象的の自負心としては、自分は幼稚園から小學校の生徒になつたと云ふ多少の緊張は起るかも知れませぬが、併ながら、我が國に於けるが如く、其の生活の態度それ自身が變つて來る爲に、今では自分の興味を主として、自分の好き好みでやつて居つた生活から、先生を主にした受身の生活に變つて來るとか、或は個人的な自由な生活から集團として纏められた束縛せられた生活をしなくちやならぬやうになつて來るとか云ふやうな、本質的な、殊に急劇な變化はないのであります。是は甚だ注意すべき問題ぢやないかと思ひます。詰り我々の小學校のやり方では小學校へ來たと云ふ自負心から來る緊張よりも、其小學校に於ける生活の變り方から來る所の緊張と云ふものが、主になつて居る。所が此亞米利加流の此やり方で云ひますならば、小學校へ入つた爲に何も生活それ自身を變へて一層鉢巻をしなければならぬ、一層襷を固くしなければならぬと云ふ意味の無理な緊張はない。唯自分は兄さんになつた、弟と云ふものが下に出來て兄さんになつたと云ふやうな人間的自負心から來る所の緊張が起るだけです。少くとも内的緊張は起りませうが、外的の緊張

は起すと云ふことはないのであります。

斯う云ふ風な形に於て小學校の幼學年級が段々幼稚園と云ふものと其關係が密接になつて參ります。

今日我國では、幼稚園から來たものは小學校に於ける學習態度の準備が出來て居ないと云ふので非難されたりして居る。詰り、受動的注意が足りないとか、集團的におとなしくして居ることが足りないとか言つて非難されたりする。併し其小學校の幼年級に於ける生活そのものが、其學習的態度と云ふものそのものが變つて仕舞つて、矢張幼稚園でやつて居ること同じやうなプロジェクトの生活、自分の目的を自分で解決して行く、或は具體的の製作の生活が本體になつて來れば、豫めさういふ生活態度を幼稚園でならされて來たものは、即ち其の小學校の生活に準備されて居るといふことになる。此處に始めて、幼稚園と小學校との本當の聯結がつく譯ではありますまいか。(筆記)

○教へんとせざる教師

「親鸞は弟子一人も持たず、たゞ如來の教法を、われも信じ人に教へ聞かしむばかりなり、何を教へて弟子とは言はむ」といふが聖人の態度であつた。しかし聖人の内に、愚禿親鸞の方面と聖人親鸞の方面と二つのものが動いて居つた事を知らねばならぬ。こうして自らのたまじひの問題に惱まれたのであるが、その憎みが久遠の人間性のどんぞこまで徹底した深いものであるが故に、これは十方衆生を代表したものである。この代表者としての苦悶は、やがて聖人が、聖人親鸞として致て、御同朋御同行のために、著述をなし、化道をなされた所以であらう。

釋尊も同じ態度であつた。この意味に於て聖人は人天の大導師人生の大教師 大教育者であると言へるのである。しかしそれは敢て教へんとせざる教師、導かんとせざる教師であつた。

この態度なくして教師とならば、それは必ず過誤を生ずるであらう。(「教育學術界」―親鸞と教育研究號より)

幼兒最初の學校生活

東京女子高師訓導

山内俊次

私は、昨年四月以來尋常科第一學年兒童三十名(男女各十五名)を擔當いたしましたして、丁度一ケ年どうやら過ごした譯であります。今日靜かにふりかへつて見ますと、誠に思ひなかなものが多々あるので、實に汗顔の至りであります。

はじめ、私の最も留意いたしました事は、外でもありません。兒童の幼稚園乃至は家庭生活から學校生活への過渡期を如何に取扱ふべきかといふ問題でありました。

この問題は私にとつては相當に難問題でありました。抑々學校生活の最初の一步は、彼等の全生涯から見ての一大變化であつて、而も極めて急劇な變化であります。従つてこれが加よはき幼兒の身心に及ぼす影響たるや決して輕々しく見る事が出來ない。況んや彼等身心發育の方面から見ても極めてその旺盛な時期であると同時に、統計上罹病率といふ

ものゝ甚だ高い時期であることは、一入注意を要する問題であるからであります。

最も新入兒童の中には、それ〴〵の幼稚園生活を來たものがあります。これは家庭生活から直ちに學校生活へ這入るものに比して割合にその變化の程度は少なからうと思はれます。故に全部の兒童が幼稚園生活をして來た場合は、これは甚だ好都合であつたらうと思はれます。何故ならば、幼稚園生活は、丁度家庭生活と學校生活との中間生活としても見得る點があるからであります。この意味に於ても、私共は今日の幼兒教育といふものゝ普及を一層發達せしむべく乞願ふ次第であります。

然るに私の學級兒童について見るに、その過半は依然家庭生活から直ちに學校生活へと這入つたものであります。最もその家庭生活の良否といふことは別問題といたしまして、大部分の兒童がそれでありますからその點には少からず考慮したのでありま

すが、少數であつても、兎も角幼稚園生活を終へて來たものもあります。ですから、これを亦度外視する譯にも行きません。従つて三十名の兒童の個々について各々異つた事情のあることは、私共も少からず考慮を要する點であつたのであります。

二

未だ全く無經驗であるべき學校生活といふものに對する新入兒童の豫期といふものは果してどんなものでありませうか。どうもそれらに對しては一般家庭に於て妥當な取扱ひのしてないものが多いではないかと思ひます。徒らに大人の考を以て學校へ行つたらばあゝしなければならぬ、こうしてはならぬなどと、未だ兒童の必要にも迫らざることまで及んで彼此と我が子を思ふのあまりにやかましくいはれた子供は果してその入學當初を幸福ならしめる所以でありませうか。私共は實際さういふ風にして來た兒童をまのあたり見るにつけてもその決してほめるべきことでないことを痛切に思ふのであります。むしろ家庭に於ける本來の子供らしい他所行きでない、ありのまゝの子供の方が自然であり、幸福であることを熟々思ふたのであります。これがそもそ

學校生活に入るのスタートを健全ならしむべく大切なことだと思ひました。

さてかくして學校生活に入つたものに對しては、先づ以て彼等の社會的生活の益々擴張されたことを新らしい喜びとして感ぜしめねばならぬ。彼等と教師との心の接觸をいひしれぬなつかしみとして感ぜしめねばならぬ。學校の所謂校規ともいふべきもので律しやうとするが如きことは、幼兒最初の學校生活に對しては無用のことであると信ずるのであります。多人數團體生活による必要に迫られて規約も構成し創造していつたらよからう。

今まであまりに時間的に規律立つた生活に經驗の乏しい幼兒に對して、鐘の合圖で教室に入り、四十分か四十五分で、更に鐘の合圖で運動場に出る、かくして毎時の終始を鐘の合圖によらねばならぬといふことは、幼兒最初の學校生活としては、稍々適切を缺きはせぬか。私はこんな考へから、随分大膽に第一學期の殆んど大部分を、合圖の鐘を度外視して進みました。

第一時間割表といふものを、嚴肅に定めないので、極めて大體の豫定を教師の方丈け定めておいた譯で

あります。そして時間的には極めて自由を與へて見たのであります。だから學校といふ所は鐘の合圖で教室の出入をするものだといふ様な感じはもたしめなかつたのであります。

だから教授時間といつても教師のお話から初まつて、途中順次に變じ、それがやがて自然動作を伴つて遂には唱歌遊戯となりなどすることもあり。繪雜誌を登校時舉つて見ることから、一人その畫の説明を教師に對してするものがある、又二人三人、それが段々全體に對しての説明となり、遂には話し方、聞き方の練習になることもある。或る時は圖畫に於てその經驗を記憶によつて發表することから、その説明となり、多數の成績を陳列しては相互に批評せしめるといふ様にして、一連續の作業を終るや、教師兒童打つて屋外に出で、自由遊戯から、團體遊戯に變化することもあり、團體遊戯から各自の思ひ思ひの遊戯になることもあります。かくして適當の機會に又教室に入るといふ様な状態であつたのであります。

或は思ふ人があるでありませう。それでは如何にも最初の學校生活が放縱と選ぶ所がなからうと。生

きた教師はそこに常に同伴者として彼等の登校時から下校時までゐる以上、さうした杞憂は一としてあるべき筈はないのであります。そしてその間に相當の課程をも終らねばならぬし、學校生活の第一歩をして健全に且つ意義あらしめねばならぬ。かくして、各個人の傾向といふものをも正確に査定してそれに適應した指導をもしなければならぬ。初學年兒童のかうした取扱に於て教師の任務の愈々重大なることを思はねばならぬのであります。

三

私の學級は矢張り四間と五間の部屋でありますけれども兒童數が三十人であるし、大テーブル五脚あつて、それに三十人の子供が夫々分れてゐるのですから、つまり一脚のテーブルに六人の子供が向き合つて腰かけてゐる譯です。そしてお互に睦しく話しながら、夫々の作業をするのであります。彼等が彼等の作業を餘念なくする間に彼等同志に睦しく話しをすることは極めてナチュラルなことであつて、又極めて麗しいことである。從來教授時間とし云へば、極めて靜肅であることを豫想する様なことであつたのは何たる不自然なことでありませう。かくて

は尊き生命を有する児童を人となしないうで物として取扱つた様なものではありますまいか。

學校へ入學すると彼等が家庭生活に於ては到底經驗し得ざることによく遭遇するであります。それは外でもありません。先づ一人机か二人机によつて。四角な廣い教室へ、隅から隅までぎつしりならべられた机にとつかねばならぬことであります。

その机間といへども時に體を横にせねば通られないといふ學校も今日尙少くないのであります。かくの如きことは、今日の經濟狀態に於ては容易に解決のつき兼ねることながら、果して幼兒最初の學校生活に於てよい影響を與へるものであらうかどうか。

私は前から度々申して參りました様に、學齡に達した兒童が學校に這入つて多數の友だちを得ることに、より、彼等のやがて社會生活への第一歩となす所に、大いに意義あることは認める。然しながら、教室の隅から隅まで机で以て埋められた中に、各兒が規則正しくその場を定められ、一壇と高い所に教師がいかめしく構へ、前に教卓を据え、鞭を打振りながら壇上に活躍するのは教師その人のみであるといふことは、何たる教師本意のことでありませう。未だ學

校生活の何物たるかをもわきまへない幼兒最初の取扱ひに於てかゝる方法をとるとするなら、あまりにしのびないことでありすぎると思ひます。

今日一學級の兒童數をなるべく少くすることは理想としつゝも一面又已むを得ずこれを實行し得ないといふことは遺憾千萬なことだと思ひます。せめてもその取扱ひに於ては、特に幼兒最初の學校生活に於ては、かくも狭苦しい部屋にのみ閉ぢこもらないでよろしくオープンエーヤで以て教授を進めて行きたいと思ひます。狭苦しい部屋でなければならぬといふ理由がどこにあります。

それらの點から申しますと私の學級の如きは、或は理想に近い程かとも思はれます。時には教室の何れの部分へでも、各自腰掛ばかりを携へて自由に集合して、其日經驗したことどもを各兒話しあひ、その機會に於て兒童の現在の生活に即した、生きた修身教授になることもある。彼等の共同製作の様なものも教室の一方には廣く場をとつて列べることも出来る。一方には書籍棚をそなへて。適當な讀物を多くそなへおき、各兒の必要に應じて自由にこれを讀むの設備も裕に出來てゐるといふ様なことは、幼兒

最初の學校生活に於て少からず有效なことで子供の爲めに如何にも幸福なことであつたかの様に思はれます。

四

私の學級に於ては、多少新らしい試みとして從來の學級教授と異つたことをもやつてゐます。即ち一齊教授といふことを少くして個別指導といふものの方をつくしてゐることなどもその中の一つであります。従つて、必要に應じて、時には一時的に席を定めることもないではありませんが、平生に於ては、テーブルが五脚ある丈で、何處でもかまはない。自習時間の如きは書棚の前に書物を見るものもあれば、窓際の棚の上で繪を畫くものもある。テーブルについてしきりと何か綴り居るものもあれば、折紙の飛行機を盛につくつてゐるものもある。さうかと思へば數名のものが計算カードによつて計算練習の競争をやつてゐるものもあるし、窓下で運動に餘念のないものもある。かゝる自由作業の間にも常に、彼等の幼稚ながらの計劃目的に對して兎も角、それを遂行しなければ止まないといふ様に訓練したいと考へてゐました。そしてそれを無理に押賣りの幼

兒に要求することは夢々したくない。自然の間に子供らしいさうした態度を養ひたいと考へてゐました。

やつと今日ふりかへつて見る時に、多少その點丈けは大いに見るべきものがあつた様に思ひます。學級全體を通じてその學習態度なるものは實に喜ばしき傾向が芽ざしてゐることを認めるのであります。けれどもこれが、果して持續するものかどうかわかりません。唯返す返すも遺憾であつたことは、私が最初大いに計劃しやうとしたことの多くは遂ひに思ふ様に實行出来なかつたことでもあります。

五

私の幼兒最初の學校生活に對して、今日まで實際より來つた方針は、大體に於て今少しく幼稚園生活的ならしめたことであります。これが家庭生活から學校生活への急變を幾分なりとも緩和することであり、幼稚園から來た者に對しては、その幼稚園生活の延長とも見ることが出来ませう。然しながら茲に一言したいことは、かうした取扱ひは、必ずしも現行の教科課程を輕減して教授の効果を低下せしむる所以でないといふことであります。幼兒最初の學校生活をより幸福ならしむべく努むることは、むしろ彼等將來への學習能率を一層高むる所以であること深く信じて疑はないのであります。

幼稚園の附屬設備について

馬場 定 一 譯

保母は裝飾に使ふ繪の選擇に就いては、多くの人がするやうに自分自身で選ぶよりも、子供等の興味と相談する方がよい。併し良き美術品ならば、子供等の興味も之に服従するから、用ひても差支ない。ラフフェルの「Madonna of the Chair」は多くの保母の經驗に由つて見るも、小さい子供等には、他の有名なマドンナよりも多く好かれる様である。お嘸の繪や、子供等がお嘸を讀む事が出来るやうな繪は子供等の注意を惹きもし且つ之を保持する事が出来る。例へばストラッツの「A Little Child Shall Lead Them」の如きは子供等には驚くべき注意を惹くものである。繪が眞に象徴して居る處のものは到底子供等には理解する事は出来ないのではあるが、なほ繪は子供を畏敬させ、之を魅するものであつて、子供が繪を翻譯することに由つて見るも、彼等の註譯の示す如く、繪の精神が子供の小さい靈に觸れて居る事實の證言となるのである。

數年前、或る市の保母が數人組合つて、眞い繪を購入した。此の繪はあちらこちらと幼持廻されて、其度に何週間か相當の場所に置かれて子供を惹きつけたものである。此實驗は非常な成功であつて、子供は其各の繪に鋭き且つ不斷の興味を示して、またあるのだらうと其後を待つ程であつた。

スペース—通例壁と調和した色のバーラツプで表装せられたる枠——はお嘸に使ふ枠にはめない繪を掛けるのに使用するがよい。是等の繪は勿論時々變へらるべきものである。

綱に布を懸けるやうに、黑板に渡した絲に繪を掛ける習慣には最も反對である。私の見た幼稚園では「Thirteen Mother Play」の繪が此方法で掛けてあつて、同じ室の他の黑板にも基督誕生の十二枚の繪が掛けてあつた。其效果は、實に美術的でないのみならず、少しも稱讚すべき所はない。同じ題目の十二

の異つた繪を同化しやうと力める結果子供の頭の中に起る錯雜を想像して見よ！單純化せよ！

單純化せよ！、小さい子供の心の發達の過程を記憶せよ！子供の狭い經驗を思ひ起して、子供を可哀想だと思ふがよい！こんな事を實際やつて居ると云へば誰でも驚くの外はないであらう。

説明の繪は注意深く選擇し且つ其の数は少い方が宜しい。幼稚園時代の子供にラ、ロールやコレツデオ其他二三の人の基督誕生の繪を見せる事はいゝ事ではない。一つの善い繪を選んで、それに満足せしめる方がいゝ。もつと大きくなつて、是等の澤山の繪が、色々の畫家の色々の心持を表はしたものであると云ふ事が理解ワカる様になれば其時には、此様な種々のタイプの繪に觸れさせてもいゝが、今はほんの幼い年である事を忘れないで、子供等に盲目的な錯雜混亂は避けさせた方がいゝ。

幼い子供は、手に持つて見る事が出来、且つ他の子供にも渡して見せる事の出来る様な小さい繪を見る事が好きなものである。或る保母は、色々な題目を説明する繪を澤山持つて居て、右の方法で其中から子供が大變喜び且つ利益を受けさうな繪の寫本を

持つて居た。

幼稚園に動物を入れる事は唯比較的僅少な例が成功して居るのみである。場所柄として、室外保育に適したる氣候を持つた處にある幼稚園では斯かる動物を飼つて置く場所なり方法なりが容易く出来る。少數の例として、室に空場所アキバの多い所では大きな籠を備付けて、栗鼠リスの様なものを入れて之を飼育する事も出来る。或る市では、數箇の幼稚園で、一群の動物を備へて居る處もある。夫を巡回動物と名付けて居る。此事は立派に満足を與へて居るが、多くの市内幼稚園では、其場所が狹隘である現状と、之を適當に飼育するのに不便である爲に、一般には其教育的價值も明かになつて居り、フレールフレイも立派に之を擁護はして居るものゝ何れにしても、恁麼種類の事を企てる事は多少滑稽である。けれども子供に飼育の精神を働かせる様なものゝある事は極大切な事である。其爲に愛玩動物として金魚がよく代用せられる。是は幼稚園生活としては子供に飼はせ易いので、美しいので、形が面白いのとの爲である。或る幼稚園では水族器を用ひてよく成功して居る所もある。春の間は、子供等が植付をしたり手入をし

たりする小さな花園が幾分この必要を満たし、永い冬の月の間も其植物は、子供が少しづつ手入をするので、動物の缺乏を補ふのである。

「若し子供が自分の花園を手入する事が出来なければ少なくとも二三の植物を植えた箱又は鉢を與へるが宜しい、夫には珍らしい繊弱なものや、八重咲のものでなくして、普通の植物で花や葉が澤山について、能く繁るものを植えておくがよい。幼児でも兒童でも、假令低い程度のものにして、他の生物を護り且其手入をさせれば、自然自分の生命を大事にし、之を能く養ふ事には容易く導く事を得る譯である。同時に植物の手入をする事は、甲蟲だの蝶だの、鳥等の如き植物に近いものを求めて之を観察することを楽しむに至るものである。」(人の教育)

保母が唯單に裝飾の手段として保育室に植物を置いて部屋番か、又は保母自身が其手入をする様な時には、教育的施設としては、最も活きた部分を誤つて居るのである。上述の如く、吾が幼稚園に生きて居り生育して居る植物を利用する事は、唯子供に生を養ふ機會を與へる唯一の手段としてある。生を養ふの精神の發達は、一組の原始的道德の端緒を躐けるもので、注意、時を誤らぬ事、思索、親切、愛等の諸徳は、生きたもの又は生育するものゝ手入をする所から産み出されたるものである。併し乍ら、

是等の習慣の發達は保母が、子供の植物の手入を其細目の毎日の特色とするに非らざれば全く失敗に終るものである。保母は子供に植物の手入をさせると屹度水を溢すので、自分でやつた方がよほど樂だし、又子供に手入をさせる價値は一般に買被られて居るものと思ふ、と云ふさうである。モンテッソリ「女史の「兒童の家」の子供等が、室を通つて熱いスーブの這入つたスーブを入を運び、其友達の皿にスーブを入れてやる事に成功して居るのに、幼稚園の子供に室を通つて小さな水壺を運び、花に水をかけることを要求する位の事が望み過ぎた事であらうか。假りに水を少し許り、溢したとした所で、布切を與へておけば汚れた所を自分で拭ふだらうし、其うちに水を溢さない様な注意を覺えて來る事と思ふ。幼稚園では、家庭と同様、子供の將來に役に立つ習慣の始まりを作るのは、この様な毎日々々の定まつた小さい仕事をさせる事に由つてである。子供の躐に於て恣厯所を怠るやうな保母は忽厯言譯があるにしも、フレーベル主義の躐方に成功しないのみならず、現代教育の或る要求に無智な者と云ふ事が出來る。

ヒュズ氏は其著 Froebel's Education al Laws に述べて曰く、彼(フレーベル)は、子供等には植物を培ふ様様けねばならぬ事を極力主張して居る。其理由は、土に於て働く自然の傾向を満足せしめ且其の結果として生ずる培養より生ずる活動性及特に植物又は動物等の生活物の興味を活用する爲めなる事を其一として居るが、彼には、家庭、幼稚園の何れにも、其子供を小さい固守とするもつと大きな理由があるのである。土の用意や、適當な肥料を與へる事及適宜にそれをやり、雜草を取り、ホーをかけ更に必要ならば鋤を用ひて注意深く培養すれば好く釣合のとれた、一層美しいそして立派な收穫のある植物を作ることが出来る、是等の結果に由つて子供等は、常に發育繁茂を認むるのみならず、自分がかゝる發育の自發的作因者となり得ることを知るものである。其は初は象徴的に、後には意識的に、總ての眞理の最も大なるもの即ち自分以外の他の生命を、より大なる生命に生長せしむる事に與つて力があるのだとの認識を得るのである。明かに死んで居る様なき種子でも、之を蒔くと後には生命に出發を與ふべき力を有し、自分の助がなければ其種子は永久に發育

の機會を失ふのだと云ふ事を知るのである。教師なり親なりはこの教訓に注意しやうとしないが、一、體、子供の無意識的時代の象徴は屹度何時かは意識的性格に自然に變化して行くものだと思ふ。人間や植物など總ての生命を助けて、其を一層高い状態のものに到達する様に助け得る事、並に生命や、肉體や智及心靈等の力の新しい要素を作つて、其種族を統一して、之を向上させるのに與つて力があること云ふ事の二つの生きた眞理を、子供の自己活動に由つて子供に現はす様な様態の利益は之を過重視する事は出来ないものである。子供の心の中に之等の統覺の中心が形成せられる事は、其の子供が出来る丈最高の教育を受ける資格を與ふるものである。人生には是等の觀念の植え付けられて居ない、比較的不純の部分が残されて居る筈であつて、之を植付ける時機は象徴時代である、且其過程は自然に於ける性の養育にあるのである」と。

ヒシヤシンス、水仙、チューリップ等の如き球根植物を育てる事は、幼稚園としては恐らく最も満足の出来る植物栽培である。球根の中には、眠つて居る生命があると云ふ暗示を與へて子供等に球根を示す事

や、球根を植え付けさせる事は、子供に熱心と興味を以て這入らせる事が出来、そして直ちに忘れてしまふ様な事のない一つの教訓を含んで居るのである。夫から數週にして小供等は小人數づゝ暗い室に行つて球根に水を遣り、將來に起らんとせる生命の標シグナルを探し求め、土の中から小さい白い指を突き出して居るのを發見して大變に喜ぶのである。これを幼稚園に持つて歸るのは誠に喜ばしい日である。而して今からは毎朝子供等は約束の蕾の現出を熱心に待ち乍ら、各植物の要求に添ふ様に一生懸命に手入れして、是等の小さい植物の生長を注意深く看守るのである。遂に其中の一つの小さい植物が立派に花を開く時には、實に多くの子供等の環視の的となるのである。これこそ眞に子供等自身の植物である。是等の植物の繼續せる處には、春は首を延べて待つ所のよろこびである。

○家庭用兒童劇第二編 出づ

坪内博士の家庭用兒童劇第一編が、多くの好評の中に出版された事は前に紹介した事であつたが、最近同書の第二編が發行せられた。美しい装ひと理解ワカやすく述べられた内容、殊に幼兒の爲にとてつくられた數題、一編にもまして、よろこび迎へられる事と信じる。

英國保育學校令並に訓令

英米に於て近時、保育學校が非常な發達を致して居る事は一般の知らるゝ處であるが、其の校令と訓令——「社會と教化」三月號掲載の——は我が國幼兒教育者にとつて、殊に兒童の心身に對する注意に於て大に資する處あるを信じ、之を左に紹介する。(記者)

保育學校規程 (一九一九年發布)

第一條

第一項 本規定に依る保育學校(保育學級をも含む)は心身の發達上保育學校に出席するの必要あり、若しくは出席するを可とする二歳以上五歳以下の兒童を保護して訓練する機關なり。

第二項 二歳以下の兒童は本校に入學することを許さず、又特に文部省の許可ある場合を除いては五歳を超へたる後本校に在學することを不得す。

第二條 一九〇二年に發布されたる教育法令第三編の目的に對する責任者たる地方教育當局は又本規

定の責任者とす。

第三條 當局より經常費の支給を受けざる私立の保育學校ある場合は

第一項 文部省は補助を許可するに先立ち補助を與へんとする學校に關し地方教育當局に照會すべし。

第二項 如斯學校は責任ある當事者が經營することを要す、又當局が必要と認むる場合には少く共其に當事者の三分の一は當局をして任命せしむべし。

第三項 如斯學校は其の性質並に經濟狀態に於て文部省の補助を受くる適當なるものなることを要す、又個人の利益の爲めに之を經營し、若しくは同校の關係者たる者無關係者たるを問はず何人にも之を租借せしむることを許さず。

第四項 如斯學校は當局よりの視察ある場合は之を拒むことを得ず。

第四條 保育學校を認可するに先立ち文部省は同校が該地方の必要に應ずるや否や、學校と家庭との距離の如何、竝に當局の醫學的專業と同校の專業が合致するや否やの點に就き省察することを要す。

第五條 學校の位置校舍設備は文部省より保育學校として適當なりと認定せらるゝことを要す。

第六條

第一項 保育學校は授業の日數一個年二百日以上なることを要す、但し醫學上の理由其他止むを得ざる事情ある場合は休暇期間を適宜に伸長し得べし。

第二項 始業時間、終業時間は適當なることを要す。

第七條 兒童の健康榮養身體保護につき必要なる施設に兒童の年齢及その事情に適當なる施設を要す。

第八條 醫學上の診査監督竝に治療及傳染病の豫防に關して充分なる設備を要す。

第九條

第一項 保育學校は資格ある管理者の監督を受く

べく管理者の任命は豫め文部省の認可を要す。

第二項 職員は適當にして其の資格竝に數に於て充分なることを要す。

第三項 有資格者たるも無資格者たるを問はず、保育學校専任教師の俸給は文部省の規定に依る公立小學校職員の最低俸給以下たることを得す。

第十條 保育學校に於いて授業料を徴收するを得ず、また食費治療費以外如何なる種類の料金も徴收することを得ず、該食費治療費を徴收する場合には相當の理由を有し且つ實價以上なることを許さず。

第十一條

第一項 保育學校は開校中は何時にても文部省よりの視察を拒むことを得ず。

第二項 始業時間及終業時間に變更あらば、少く共一週間前に文部視學官に豫告し不意の事變ありて終業する場合は電話を以て報告すべし。

第十二條 文部省より記録又は回答を要求さるゝ場合は適當に之をなすべし。

第十三條 保育學校が當局より經常費の支給を受け

居らざる場合は

第一項 各年度の終りたる後、次年度の始め即ち四月一日に前年度經費の二分の一の補助を受く可し。

第二項 補助金の標準たるべき經費は文部省に於て同校總經費の中より同校が受領したる料金並に寄附金を差引き且補助の目的に該當せざる經費を除きて計畫せらるべし。

第三項 補助金の請求は補助期間に對する説明書を添へ、地方當局の手を経て文部省に申し出づべし。

第四項 閉鎖したる學校若しくは認可を取消されたる學校に對する補助金は、閉鎖若しくは認可取消の日迄に未濟の補助金額以上たることを得ず。

第十四條 補助金の支給及び其の認可の繼續は本規定の各箇條を履行するや否やに依つて決す、但し何れかの箇條を履行せざるも正當と認むべき特殊の事情ある場合は文部省は認可を取消さずして其事情に相應する補助金を支給するか若しくは認可の資格を得る迄假の補助金を支給することあるべし。

し。

第十五條 本規定の解釋に疑義を生じたる場合は文部省に最後の裁決を仰ぐべし。

第十六條 本規定は一九一八年四月一日より效力あるものとす、而して一九一九年保育學校規程として布告さるべきものなり。

保育學校に關する訓令

一、千九百十八年九月八日より實施の教育令第十九條によれば

(一)教育令第三部(千九百二年)の目的の爲めに地方教育當局の有する權利は次のものを含んで居る。

(a)二歳以上五歳以下の幼児及文部省によつて身心發育のため、この種學校に出席することの必要なことを證明された、これ等年齢以上の兒童に對する保育學校(保育學級をも含む)の設備を補助し、或は調達するの權利。

(b)保育學校に出席する幼児の健康、榮養及身體保護に對して注意するの權利。

(二)議會令の規定に拘らず、文部省は議會の協賛

を經たる金額以外に保育學校の補助に對して、支拂ひを承認することが出来る、但しかかる授與金は當該學校が地方教育當局の監督を受けない場合には支拂はれない。又少なくとも該學校の職員の三分の一が當局によつて任命さるゝのでなければ又かかる授與金は交付されない。

二、保育學校の目的。保育學校又は保育學級は二歳以上五歳以下の幼児の保護及訓練のための設備であつて、かかる晝間學校に出席することが、その心身の健全なる發達に對して、希求される幼児に對しての設備である。

故にこの種學校は二種の機能を持つてゐる。即第一は幼児各個の周到なる個人的注意及醫學的監督であつて、その愉悅、休息及適當なる榮養に對する設備をも含むものである。而して第二は、身體的、精神的及社會的の適確なる訓練であつて最も廣義の良き習慣を熟練にして聰明なる教師の導きによつて構成し、遊戯及作業によつて、各年齢の幼児との秩序ある交遊を作らしむることも含む。幼児は、最も成長の速かなる組織體である。保育學校は一方に於て、幼児の成長をして環境の影響

より免がれしめ、成長を遅緩せしめ、或は、制限する諸種の事情を除くと共に、他方直接にその成長を促進すべきである。故に保育學校は幼児に對して「要心する」ための場所ではない。保育學校の必要は、人口稠密なる都會に於て最も大である、良く經營されたる保育學校の完全なる設備の、幼児及其両親に及ぼす影響は、その價值殆んど知るべからざるものがある。

三、本訓令は同時に發布する法令に對するものであつて、(一)幼児の身體的養護、(二)精神的訓練及社會的訓練、(三)必要なる行政的處置、即、校舎の位置、設備、入退學の年齢、定員及職員其の他補助員に關する事項に關するものである。

△……身體的養護……▽

四、一般的衛生、本令の各條項は幼児の健康、榮養及身體的福祉に注意するの必要を高調してゐる。健康の増進は實に良き保育學校に出席することによつて得らるゝ主なる利益の一つである廣く考へて此の身體福祉の増進は常に考慮に入るべきものであつて、保育學校の有益なるこの方面の影響を大ならしめるための活動は、殆んどその限界を考

へることができない。身體の養護はたゞに休息運動及身體發達に對する機會を與ふるにとゞまらず、衛生的な學校の環境を作り、衛生的の生活習慣例へば、清潔の如きを馴致することをも含んでゐる。幼兒の食物を適當に與ふことも亦同様的重要である。晝食及間食は一般に學校に於て與へらるべきであつて、出來得べくんば朝食をも幼兒に給することが望ましい。食事の獻立は充分注意しなくばならぬ榮養分も適當にして充分なることを要する。幼兒は休息及睡眠のために一日の一定時間を充つることを要する。その具體的なる時限及長さは、こゝに、詳述するの必要はないが、毎日それが同一時刻になさるゝことは必要である。教師はその休息時間の前後の事情を斟酌するを要する。休息は設置及片付の容易なる吊臺又は清潔にした敷物の上でとらせ、横臥せしむべきである。

五、直接身體の健全なる發達を促進する訓練も亦必要である。適當なる身體習練は年齢の如何に拘らず、幼兒によつて缺くべからざるものである。極めて簡単に組織された運動に加ふるに自由なる活動をなして、その自然の勢力の迸るに任せて、そ

の四肢を用ひ、ランニングやジャンピング等の簡單なる團體遊戲をなすことは、許容し、又獎勵すべきである。幼兒には又、正しく自然な呼吸の仕方を教ふべきであつて、こは清潔にして開闊な場所に於てなすべきである。外氣生活の價值について過大視することは出來ない。即好都合なる花園、又は、軒下、その他の運動場に於ても強い風や、濕氣や、夏の太陽を遮ぎつて清潔にした處に於てこそ、保育學校の幼兒に一定時間を外氣中に費やさしむべきである。自由なる身體運動をなすためには、戸外の使用は制限するを要しない。殊に溫暖なる天候にあつては、椅子、卓子、及ハンモック等は戸外に用ひられ、その日の作業の大部分は外氣中に於てなすことが出来る。

六、醫學的監督、法令第四條に於て規定するが如く保育學校は學校衛生の作業と密接なる關係にある。地方教育當局の經營すると、私人の經營するにと拘らず保育學校は、學校衛生官の監督の下にあるものとする。私立保育學校の場合にあつては、學校衛生官が全部の醫學的監督をなすの便を有しないが、かゝる場合にあつても、この目的のため

に従事する醫師は時々學校を訪問する衛生官と連絡をこるべきである。かゝる醫師は可及的學校に隣接し非常の場合に便宜を有することを可とする。

七、保育學校の醫學的監督は次の四つの理由によつて必要である。

(A) 身體的に入學することの不適當な兒童を入學せしめるため。

(B) 可及的身體の異常及疾病の昂進を防ぎ必要な處置を迅速にするため。

(C) 可及的早期診斷によつて、チフテリア、百日咳等の傳染病の傳播を防ぎ、その豫防の手段を迅速に講ずるため。

(D) 衛生的なる生活習慣を發達せしめ、これを妨ぐるものを除くため。

在學を願ひ出でたる幼兒の中にも、保育學校に出席することの身體的に不適當なものがある。又規定の年限に達するも尙その健康上公立小學校に入ることなく、保育學校に在學する方、望まじき幼兒もある。

幼兒の中に發見する種々な身體的習慣、たとへば、

口呼吸、横目、目に近く仕事をすると云ふ如きものは、可及的早く發見し、これを矯正するため注意を振ふべきである。保育學校の設備の一つの理由は、實に現今の小學校就學兒童の中に見出される障碍の多數、及これから來る教育上の缺陷、不能等を消失せしむるにある。最近數年間に於て、公立學校の一學年に入學する兒童の中に發見される缺陷の程度及性質は五歳以下の兒童に於ける健康狀態の低下を示してゐる。しかも二歳乃至五歳の間を適當に取扱ふにあらざれば、こは、防止することができないであらう。

八、醫學的監督及處置、各幼兒は入學後可及的迅速に上述の箇條によつて、醫學的に監督すべきである。而して、少なくとも一學期一回は、醫師によつて診察せしめなくてはならない。疾病兒童は、尙一層數多きの診察を要する。學校看護婦は、幼兒の定期醫學的検査を行ひ、幼兒の身體的缺陷の原因を探り、かつ必要に應じて日々學校を訪問して衛生的監督、溫度の調節、又簡單な治療をすべきものである。

多くの場合に、學務監督又は必要の資格ある當局

が、これ等の義務をなすは、一層望まじきことである。學校看護婦は、少なくとも一學期一回（一ヶ月一回なれば尙可）身長及體重を測定しなければならぬし、又兒童の清潔、衣服、履物の適否、及學校の衛生については一定の責任を有するものである。

九、處置の便宜及注意の方法は、公立小學校に於けると同様保育學校に於て用ひられる。たとへば斜視兒童、重聽兒童の如きは學校診斷所に紹介して、その忠言をきき、必要に應じて治療をするのである。創疾、凍瘡の如き徴症は學校自ら治療すべきである。正しい呼吸法には特別の注意をほらひ、視、聽、榮養等については些少の異常もよく注意して、これを早く治療するやうにしないでならない。かゝる場合には學校醫に紹介するがよい。

疾病並に、其の處置等身體の狀況に關する記録は、公立小學校の用に立てるために、表として保存し、小學校入學の際に添付するやうにする。若し以前其の幼兒がある保護施設にあつたときは、その記録を請求すべきものとす。

十、傳染病、傳染病豫防は、五歳以下の幼兒の多數がこれにかゝることの多いものであるから最も重要である。幼兒の幼少なる程麻疹、百日咳の如き病氣による死亡率が大である。麻疹又はその併發症によつての死亡率は九十パーセントまでは五歳以下である。かくの如くであるから、幼少期を超えらるまで麻疹にかゝることを免るれば、その後にかゝるときは危険少なく、又、肺炎、結核昂進の如き係發症、又は、後遺症を起す憂が少ない。近く傳染病にかゝつたことの明かな兒童は、特別な注意をなし、結核の如き後遺症の起らない様になすべきである。傳染病は次の如くして其の傳染を防ぐことができる。

(一)入學時に於て各兒童について毎日監督を怠らないこと。

(二)傳染病の初期に於て隔離し、登校を禁止するの規定を嚴に施行すること。

(三)感冒又はその疑あるものを用意すること。

(四)各兒童の清潔と衛生的施設とを完全にすること。

(五)學校の設備を外氣法に従つてなすこと。

學校醫は、傳染病の流行を豫防し、諸種の處置の一般監督について責任を有するものである。必要なる日々の監督は適法の看護婦、又は完全なる經驗をもつてゐる年長の職員によつてなされるべきである。年少者又は無經驗なものに委ねてはならない。

疑はしい場合には、醫學的の處置を施すと同時に隔離すべきである。疑似傳染病についての検査處置は、學校醫によつてなし、地方醫によるの便宜もある尙これ等傳染病の診斷については、保育學校は、一層有效なる系統的な方法を講じなくてはならぬ。であるから適當にして安全な保護法が講じられるまでは保育學校は、地方學事當局者に於て許可しない方がよいのである。

—(以下次號)—

○子供の机と腰かけ

醫學士 岡 田 道 一

(前略)不良な机または腰掛からくる身體上の影響を説明しやう。

(一)脊柱彎曲 この病氣はたしかに不良の机または腰掛けによつて生ずる事は著明な事實である。脊柱が彎曲すると呼吸が淺くなり、血の循環が悪くなり或ひは消化吸収不充足になる。即ちそれは脊柱が後彎になると肺尖の部分を壓迫して肺を弱めたりまた同じく左彎、右彎となると心臓を右や左に壓しつけるからである。脊柱彎曲は肺病や心臓病の下地を作るやうなものである。

(二)胸廓の不正 机腰掛が不適合であると胸が壓迫されて従つて扁平胸とか鳩胸とかになり易い、こんな胸は呼吸に關係があるから將來肺結核になりやすい下地を作るといふべきである。

(三)起立性蛋白尿または腎臟炎 不適合な机や腰掛の爲腰椎が丸くなり、そのため腎臟が壓迫されてこの病氣を起すのである。

(四)近視 いはゆる近眼である。この原因の一として机や腰掛の不適當のため目を近づけて書物を見る事もかそへられるのである。その他この原因として机の置き場所にも關係がある光線の充分に入らない薄暗い所に机を置いておくや近視の原因になりやすいから机はなるだけ明るい場所に置かなくてはならぬ。その爲電燈の光などは机の左方からとつて手暗がりにならぬやう注意せねばならぬ。

(五)その他の病氣 以上のほか足をぶらんとさせたり腰掛の角で

春の園藝

東京女高師教諭 竹 島 茂 郎

昨年の秋私は「球根類の植ゑ込みと掘り方」と云ふ題で園藝の一端を述べた事でありましたが、其の當時植ゑ込んだ筈の水仙やチュリップやヒヤシンス等は唯今花壇を賑はして居ることでありませう、是等はやがて春がたけて来てそろ／＼木蔭がしたはしい頃になると、地上の部分は枯れ初めますから其の前に掘り起して涼しい場所に貯へる必要があります、唯今の仕事としては、掘り取つて穴倉に貯へたダリーヤやグラジオラス「ゆり」等をそろ／＼取り出して圃場へ植ゑ込む必要があります、そこでダリーヤに就ては昨年も申した通り「いも」につけてある短い莖部から芽が出やうとして居る筈でありますから、能く注意して株を切り分ける必要があります、之を若し切り分けないで其のまゝ植ゑ込みますと、芽が込合つて出て来て丈ばかり高くなつて花が著きにくいものであります、左様な譯でありますから、かりに一つの株に大きな「イモ」が三つある場合には、

芽の數をよく吟味して三つ以上あるときは、三つだけを残す様にして缺で以て株を切り分けて、一つのものに一つの芽と云ふ風に三株にするのであります、一般に下等のダリーヤ程芽の數は多いものであります、左様な種類はドシ／＼芽をもぎ取つて數を少くするのであります、上等のものになると芽が割合に少いものであります、若し「いも」が三つあるのに芽が二つしかない場合には、兎に角一つの芽には「いも」を一つ他の芽には「いも」を二つ著けて置くこと云ふ様に致さるべきであります。

株を切り分ける節誤まつて芽のない「いも」が出来た場合によき芽を接ぐ方法もありますが、之は中々手際を要するものであつて、一寸紙上で説明するところが困難であります、又株を分ける場合に芽を落す様なこともあります、左様な場合には之を挿芽さきめにして新株を作ること出来、挿床さしどこは砂地が宜しいのであつて、場合によれば鉢に砂を入れて之に挿し、

日蔭に置いて時々温氣を興へて世話をすれば宜しい、左様にすると程なく根を出して元氣を恢復するのでありますから、やがて注意して掘り起して圃場に植ゑ込むのであります。

グラジオオラスは秋の時にも述べた様に、昨年植ゑたあとへ植ゑることは禁物です、必ず新しい土地に植ゑなさい、さうして油槽等の肥料を比較的豊富に興へることが必要であります。

「ゆり」の類には「てつばうゆり」「かのこゆり」「すかしゆり」「をにゆり」「やまゆり」「ためともゆり」「たけしまゆり」「くろゆり」「くるまゆり」等があります、其の中「くろゆり」「くるまゆり」は平地には一寸作りにくい種類であります、「ゆり」の花壇を一つ特別に作つて置いて、色々の種類を一緒に植ゑて置くことも一興であります、是等の球根(鱗莖)は比較的深く植ゑる必要があります、「ゆり」の類も比較的肥料を豊富にやる必要があります。

種子物類としては、「げいごう」「あさがほ」「おしろいばな」「おじぎささう」「ひやくにちさう」「コスモス」「ほうせんくわ」又は二十日大根、「こかぶ」「あつり」「へちま」「へうたん」「なんきんまめ」。

「さくげ」「なたまめ」等は面白いと思ひます、「さうり」には節成とて大層結實の豊富な品種もあります、「へちま」には「大長へちま」とて二三尺になる品種もあります、『世の中をなんのへちまと思へどもぶらり』としては暮らせもせず」と云ふ狂歌は一寸面白いですが、「へうたん」としては「千成へうたん」は比較的興味の多いものです、「なんきんまめ」は花が咲いて夫から花軸が根の様に伸びて、地下にはいつて實と結ぶことなど誠に面白いものです、殊に此の「なんきんまめ」の葉は睡眠運動とて、夕方になるとつぼんで夜があげると元氣よく開くことなど、子供に觀察させるのによい事例であります。

さく柳さして幾日も経ぬものを

根ざしひきみる友わらわ哉

言道

た子さんを初めて幼稚園に送る方へ

充分な心づかひは大切だがごくと言ひきかすのは子供に悪い

倉 橋 惣 三

(二)

初めて子供を幼稚園におくるについて一番大事でしかもよく間ちがへられてゐることがある。それは明日から幼稚園へ行くのだといふので大層かたくるしい生活に入るものゝやうに子供に説きかせることである。之は小學校の場合でも同じ事で、教育といふものを餘り特別な窮屈な心持ちで初めるといふ事は極はめてよくない事である。學校と異り幼稚園においては子供の年齢が少いだけなほ更この點が注意すべきことである。餘り事あらたまつたむづかしい生活に入るといふ事をつよくいひきかされるために、あの可憐な子供が大人の想像もつかない緊張した心持ちになつて、そのために健康を害し、殊に神經の上に少からぬ害を與へることがしばしばある。或ひは當分の間食欲がへるとか、或ひは體重がへるとか、或ひは睡眠の上にいる／＼な影響を起こして

くることなどもある晝の間はそれほど気がつかないでも、夜寢てから不意に床の上に起き上がつて顔色をかへたり、なきだしたり、はなはだしいのは一種のかい瘡癩をさへ現すことがある。それは醫學で夜驚と名づけて、子供の心に激しい刺戟のあつた日の夜に起るが、かういふ事が幼稚園に初めてはいつた子供におこつたりしないともかぎらぬ。かういふはなはだしい例は勿論その子が神經的な素質をもつてゐるためであるが、それからおして見ても普通の子供でも相當に心の激動をうけるものだといふことは考へねばならない。今まで少數の家庭の中にくらして、あふ人も聞く言葉も見るとも、日ごろなれてゐる氣安いものばかりであつたものが、見知らぬ建物、見しらぬ友だちの世の中に出るのであるから、さなきだにやさしい子供の神經は刺戟をうけてゐる。それを更にそばから餘計なことをいつて、

『しつかりしなければいけない』。『行儀よくしなければいけない』。『家にゐる時とはちがふから』など、いふのは、いふ大人はそれほどのつもりでないにしても、幼な心には非常な緊張を興へるのである。

(二)

たゞにかういふ身體の上に及ぼしてくる悪い影響ばかりでなく、幼稚園の方から見ても、いろいろの悪い結果をおこす。初て家庭からうけとつた子供をむかへる時に、幼稚園の保母の最大の苦心は『どうしてこの子供としたいしくならうか』。いひかへれば『どうして心と心のへだてない接觸を得ようか』といふことである。このためには勿論いろいろの経験にもとづく態度も方法もあらうし、殊に保母自身の心がいかなるやはらかな子供的心にもすぐふれ得られるやうなやはらかさをたゞへてゐなければならぬのであるが、それにしても子供の心が、子供らしくなく不自然にごちてゐる場合には、これを開いてうちとけた心持ちにかへすことが非常な困難である。元來子供の心はたれにでもしたしみやすく、へだてのない筈のもので、殊ににこやかにむかへてくれる姉さんやおばさんのやうな、保母に對しては、この子供の

自然の心持ちがすぐに出てくる筈であるが、時にはさうでないことがある。それは中には神經質のはにかみやといふたぐひの子供もたまにはあるが、寧ろ家庭でこの開かうとする子供の心を無理にとぢるやうに、くだらない無用の心得のやうなものをいひきかせるためである場合がおほい。極端にいへば『先生を見たら、こはいものと思へ』。『しかられるものと思へ』。『鬼だと思へ』とでもいつたやうに嚴格に教へる親もあるやうである。親心としてはさういふやうにしていかなければ教育といふものがうけられないと考へる場合もあらうし、また自分の家のわがまゝものを人さまにおたのみするには、親としてさういふ豫備的注意をしつかりしておかなければ相すまぬといふ義理がたいとでもいふ心持ちをする人もあらう。

考へ方によつてはそれらの親心そのものには無理もない點もあるとも見なければならぬが、これはほんたうの教育をうけさせる心得でもなければ、またほんたうにわが子を信頼する保母に託するたゞしい態度でもない。教育は勿論いろいろなことをするけれども、その出發點或ひは土臺とでもいふべきもの

は、子供のあからさまなありのまゝな自然の正直な心持ちからでなければ何一つほんたうのことはできないといふことである。親の出がけのいひきかせによつて、一種の不自然な心持ちにさして、大切な教育の第一歩に入らせるといふことは非常な間ちがひである。幼稚園へ初めて子供をおくるについては、できるだけ『たのしい世界へしたしみのおほい世界へ自分を心から信じてくれる人たちの世界へ行くのである』といふ心でしなければならぬ。しかしこんなことを事あらためていひきかせるだけで緊張するやうな子供ならば、極不自然な心持ちで、一寸お隣りのをばさんのところへでも行くやうな樂な氣持ちでおくるのが一番よい。

(三)

たゞしこの不自然な心持ちといふのは子供の心についていふことで、親の心としては決して不自然であつてはならぬ。幼稚園に子供をおくるのには親として非常な用意のいることである。『まあ、うちの子供も幼稚園に行くやうになつて手が樂になつた』。といふやうなことは非常な間ちがつた考へである。自分の子を人さまにお願ひするといふ普通の人情から

いつても、それには充分な用意もし心づかひもしなければならぬ。たゞ義理や人情からさうなるべきでなく、實際に幼稚園からどれだけの充分な利益をわが子がうけてゐるかどうかといふことも大いに親の心ひとつによるのである。幼稚園としては家庭の心がけの如何にかゝはらず、その子のために最善をつくさうとはこひねがつてはゐるが、またさうあるべきであるが、おなじあそぶにしても遊ぶに都合のよい服装をしてる子供とさうでない子供とはおなじ幼稚園からおなじく與へられるものをうけるにしても違ひのあることはしかたがない。清潔な親の心づかひになるお辨當をたべる子供と不注意なるお辨當をたべる子供とが、幼稚園生活からうけとる利益が非常な差のあることもあらそへないことである要するに幼稚園へわが子をおくるについては親は緊張した心づかひをしなければならず、子供にはできるだけのおんびりとした氣樂などかな心持ちで幼稚園をたのしませるやうにしなければならぬ。

(四)

終に大事な可愛いお子さんを初めて幼稚園におくる家庭の方に是非とも特に申し上げておきたいこと

は、家庭自身が幼稚園と人間的なしたしみの関係にならなければ、ほんたうの教育は到底できないといふことである。子供を幼稚園におくることは子供を中にして家庭と幼稚園兩方が相抱く様にして教育して行くことにほかならない。しかるに子供は幼稚園でたのしんでくるが家庭は幼稚園とあかの他人であるといふやうな冷淡な關係であつては、決してよい教育はできないのである。(東京日々新聞)

押したりすると足が腫たりはげしい神經痛を發したりする。また腹部を壓迫するから消化器の病氣も起りやすい。さて以上のやうな病氣を豫防するのは別に難事ではない。たゞ姿勢を正しくして机腰掛の適當なのをえらばよいのである。文部省の學校用机、腰掛の構造はすでに、明治二十六年に三島通真博士の研究で作られてゐる。それは兒童の身體の發育の程度に合ふやうに作られたので普通小學校で用ゐるものは一號から五號の机及び腰掛けがある。凡そ六歳の兒童に一號の机を、七八歳の尋常一二年の兒童に二號を、九歳、十歳の尋常三四年の兒童に三號を、十一歳十二歳の尋常五六年の兒童に四號を、十三歳十四歳の高等小學の兒童には五號をといふ事になつてゐるが元來年齢の如何に拘らず身長の高低によりてこれらの机を使用してよいのである即ち腰掛の高さは兒童の下脚の長さにとく、机の高さは腰掛の高さに肘から腰掛の面に至る距離に七分乃至一寸三分を加へたものになれば丁度よいのである。

然し中々さうおあつらへに寸法が行くものでないから、まづ洋式なら兒童が小學校に入る時の一號の机の高さの一尺五寸、日本式の机だけならそれから腰掛の高さを引いただけの七寸位の高さからはじめ、二年ごとに洋式の机なら一寸五分位づゝを日本式の机なら五分乃至一寸位づゝを高くする事が出来ればまづ理想的である。一番によいのは子ヂの如きもので、高低の調節自在の机、腰掛けてこれなら如何なる兒童でも適合させ得る。すでに英米の諸學校ではこの種の机を用いてゐると聞いたが、早くわが國でもこれを用ゐるやうになりたものである。さて机が低過ぎたらどういふ害があるかといふに勢ひ前に俯するから近眼をさせ、胸が机におされて呼吸が

幼稚園ゲーム

土 川 五 郎

すわたり立つたり

一組の子供は各々の椅子に半圓を描いて坐す。

子供は眞直に坐り兩手を組み足揃へる。

立つべき合圖にて一齊に立つ、少しの足音もなく、兩手も少しも動かすことなく、何等の混雜もなく靜肅に、しかも迅速に立つ。次に坐るべき合圖によつて又正確に靜かに坐わる、かくの如くして連續四五回に及ぶ又別法として兩手を背後にて組み兩脇を兩手にて受け坐立をなす、この仕方は多少困難の伴ふものにして筋肉の統制を確實を要求する。

目的、筋肉の統制、注意、訓練。

輪 通 し

直徑四尺の青と赤と半々に塗つた籐の輪、赤及青の立囊各三つ。

相對したる二人の子供に床上三尺位の所に輪を縦

に掲げしめ、他の多くの子供を十二フット離れて輪の一方に集合せしむ、教師は其反對の側に立つ。教師は豆囊を其輪を通して集つて居る子供の方に投げる、一度に一つ宛、(六回續いて)子供等は敏捷に其豆囊を受け教師全く投げ終りて、更に子供はそれを教師に投げ返す、かくして數回繰返す。この遊戲によつて弱きもの、最足らざる子供は特別な注意を與へらる、注意せざる子供は何時も強者に厭せられ何の得る所もなきに至る故である。

目的、遊戯精神の發達、手と目の練習、注意。

椅子取り

一列に六つの椅子を列べ、八フット離れて一線を描き七人の子供を立たしむ。

合圖により子供は駆けて其椅子に坐す、後れて椅子を得られぬ一人の子供は列外に。

更に椅子一脚を減じて前の如く繰返す、一つの椅

子と二人の子供が残るまで續ける、然る後最後の
勝敗を定む。

目的、筋肉の統制、注意

目かくし

子供は手をつなぎ大なる圓を作る、六人の子供を
擇み圓内に入れ、一人の子供は目をかくし中心に
立つ残りの五人は輪を作る、短き歌によつて目か
くしされた子供の外皆左にまわり歌の終ると共に
止まる、中の目くらは五人の内の一人を捕へる、
捕へられたものは目をかくし中に立ち、残りの五
人は外列に歸り、他の五人が擇まれて中の輪を作
りかくして繰返す。

別法 歌止みて外圓のものは其まゝ内方に向いて
止まり中圓の五人は離れ／＼となつて捕へられざ
る様に足音なく圓内を逃げまわる。

目的 遊戯精神の發達。

さまたげられるからよくない。反對に高過ぎたら座面が浮き腰にな
つて脊柱は右または左に彎曲する。殊に日本の机においてほうしる
にもたれがないから身體の動搖が甚だしい。腰掛けが高い時は足が
地に接しない爲大腿のうしろが「シビレ」を起したり、低過ぎると腹
部の臓器が壓迫されて消化の障礙を示すものである。それから腰掛
に付いてゐるもたれは必ず必要である。その爲め兒童の姿勢がみだ
れずにするのである。また机の面は外國では必ず斜面となつてゐる
が日本字を書くには却つて肘下りとなつて姿勢を悪くするからいけ
ないとしてゐる。さて以上のやうに机にもまた腰掛けにも不備な
點があつてはいけぬが、いかに適當な机でもこれによりかゝつたり
などしてはいけぬ。即ち姿勢の訓練が行き届かぬと何にもならぬ。
腰を掛けた時上體は自然の直立をしてその重心が兩座骨結曲の中間
に落ちる位置をとり、兩脚は自然に開き、兩下腿は垂直にし、兩足
は平に床面を踏んで、兩手は股の上に置き、目ば前の方を正確に正
視するのがよい姿勢である。その缺點を見出すのにはそれらの兒童
の四方から觀察すれば一番よく分るのである。

—「日本兒童協會時方」より—

萬國幼稚園
協會案 幼稚園要目 (四)

構成の材料。

積木、砂場、粘土、紙、織る爲の織物、縫ふ爲の織物、木材、雑多な材料。

積木は、フレール積木の擴大したもの——形も割合もフレール積木と同じで六倍の大きさにした床上積木——と、これらと連絡する種々な形の板片とから成立つてもよろしく或は、ヒル氏の床上積木と板とは、木工場か學校の手工部で造られる。それには楓或は他の質の堅い木材を使用すべきである。

之等の材料を持つて多くの構成は、子供達もつと自由に、もつと大きい筋肉を使って遊ぶ爲めに、床の上でする。毛は清潔にして置かなければならない、そして子供達には各自に小さい全皮か藎ごさを用意して置くべきである。子供達が必要を感じる時には床上積木と共に板を興へたり又、フレール積木の屋根にする爲にボール紙を興へたりする事が出来る。最初子供達は自由に材料を使つて、何が出来るかを自分で發見しながら實驗する。子供達は

材料の可能性を發見した事から導かれて、まもなく自分自身で題材をさらへるようになる。たとへば、塔を造る爲に積木を積み、或は人道をならべ、或は家や汽車の車を構成する如き。そして彼等の構成は現在の興味又は過去の經驗と同程度のものである。一人の子供が正方形と長方形の角柱で立關や階段を、丁度自分の家のと同じ様に造れば、一番目の子供は、一昨夕方散歩して食事をした事のある並木の中のベンチや長テールを造る。幼稚園の人形やお皿で創造された社會状態は、椅子やテール、ストープ寢具其他の物を造る積木の用法を呼び起し、五六日も續くことがある家事遊は發展し改善せられて、子供が必要を感じる毎に掃木やナブキン、テールブルカケ、寢具の様な方面に装具が附加へられる。時には各々の子供は自分の方法で自分の考を實現する様に積み、再び二人或は四五人の子供が積木を連合し自發的に協力して提案を解決し、同時に一群の子供は、教師の誘導から或は彼等自身で撰擇した更に大きい社會的の計畫を解決する爲に協力する。教師が彼

女の日程の中で特に力を用ひ様と思つた問題の中のどれにでも子供の興味が生じたといふ事を見たら、すべての子供達の興味がそこへ集注するようにさせる。たとへば数人の子供が家事遊びに興味を持たせると、教師は構成に更に強い動機を興へる爲に、そして場面を一層眞實に又興味深くする爲に、ついでたてでしきつたお家を持ち出して来る。さうすれば教師は遊びを進展させる爲の問題を指示する事が出来る。

積木の構成の計畫の或物——雜貨店を建てたり、室の一隅のお家に家具を装置したりする事——は、日程の主題から起る。

雜貨店は、初め個々の計畫として造られる。各兒がフレールベル積木で帳場や棚——大小の珠の塔で表はされた果物や野菜の罐やジェリーのガラスの入れ物を添へた——を造る。他の材料で構成せられた物も装置を完全にする爲に同じ様に添へ物をする。個々の仕事ですんで後に群になつた子供達は、多勢の子供達が一度に來ても充分な丈の大きな店を造るのに各自の努力を協力する、——大きい積木と板を帳場と棚に圓筒を野菜や果物の罐に使つて——。遊び

が進行した時に、そして子供達が必要を發見した時に他の材料は積木と共に用ひられる。實物の果物や野菜葡萄が用ひられてもよい、或は粘土の果物や野菜が造られ、彩色され、そして箱や籠が之等の入れ物として構成られる。貨幣が造られそれを入れる紙入や物品の受渡の車が造られる。クリスマス季節が近づくと雜貨店は玩具店に變り、自分達で造た雑多な玩具で子供達によつて飾りつけられる。春には、新しい衣服の必要が、百貨店や呉服店の装置建築へと導く。其他の計畫は、ひよこの家や小舎、穴倉や農家の如き農園の建物を構成したり、垣根を造たりして、農園を造り出す事である。子供達が、彼等の食物の起原に興味を持つと同時に、出來得るなら農園へ遠足をする。農園の經驗を、出來る丈價值あり、又樂しきものとして朝は、ひよこに、餌をやつたり又枯草の中で遊ぶ事に費される。その翌日幼稚園では玩具の動物が持ち出されて子供達は彼等の積木で動物の爲に、特別の小舎や水桶や納屋の庭を造り、野原や畑や牧場が造り出され、そして垣根が出来る、かようにして漸次この、小農園は砂箱の中で或は室の一隅で發展して行く。此處でも雜貨店の時と同様

に計畫を完全にする爲に、他の材料が積木と組み合される。若し農園への遠足が出来ず、そして農園訪問が各自の子供の經驗の部分にならないならば、この問題に就て費される時間は、少くない。そして單に之等の農園の狀況が、子供の經驗に最も親しく、最も興味ある様に見える製作でのみ表される。たとへば雜貨店に農産物を運ぶのに彼等が見る積荷車の構成や玩具の動物の小舎を建てる事や又玩具の動物に餌をやる事や水をやる如き。

代表的の建築と、社會でよく知られてゐる建物——それらは子供達の家庭に貢獻する處ある故に、子供達にとつて興味あり意味深きものである。最初に、家々は、子供各自が住まつてゐる家、或は親しい家と同じ様に建てられる。之等の個々の家々は、後に街路に添うて排置される、そして人道や馬車、街燈やポストが之等の家々と連絡する爲に又其の家々の役に立つ爲に用意される。子供達が最も親しみある代表的賣店は實業区域内に建てられてゐる。馬車、荷車、自動車は運般の爲に構成構成られる。之等に次いで、學校や寺院や郵便局や圖書館や消防署、汽車のステーション等の如き親しみ深い公共建

築物は特有な形で建てられる、かようにして室の一隅に小社會が漸次發展して行く。

形式的の仕事は此の材料ではされない。それは大體が、此の時代の子供の興味をひく處の物の用途、と目的、資質と作用とである爲に。材料で作る、といふ事には數學的の價値がある、そして子供の取扱う種々の經驗から、後の爲に形や大きさや數の辨別及部分の排列の基礎を作る。然し教師は材料の外觀を強ひてはならない、が子供が自發的に或數學的價値に到達した場合には、いつでも教師はその必要を滿たす。幼ない子供には例外であるこの數學的興味に加へて形、大きさ、數、排列が、子供自身で仕始めた計畫を實現する爲に意識的の要素となつて來る時に、子供は自然に數學的價値の或智識を得る、たとへば若し建築に、長方形の角柱を使ひ盡したとして、そしてもつと子供が要求した時には、教師は、子供の前にある、長方形の角柱を造り得る積木を指示してもよい。この積木の必要から、子供は二つの長い方形の角柱、或は二つの短かい方形の角柱が長方形の角柱と同様に排置されるといふ事を發見する事に興味を持つ。

砂場—そこには貝殻や礫や錫や御影石のお皿等のある—は、装置の價值ある項目である。子供達は最初、たゞいたり、積み上げたり、篩たり、掘たり、かきまぜたりして、砂場の中で山を造たり穴やトンネル、川や井戸やお菓子やお料理を作たりして、自分自身の遊びを實驗する。後に子供達が、協力する事に興味を持つ様になつた時に、砂場に、集團的な問題が提出される。野原や畑、建物のある農園、學校の運動場、公園、家、庭園、自動車置庫、我等の街路或は、我等の町か近所の代表的の建物、は日程の主題によつて提出された問題であつて、砂場で解決される。

紙又は積木で造る構成^{クミカタ}—人や動物は紙で剪り或は土でこね、木は小枝又は紙で表はされる。其仕組みは簡單で、子供に案出され、子供に實行せられる。教師は彼女の子供に對する質問で、子供が仕組みを考へたり組織立てたりする事を助ける。しかし、仕事をすると、こいふ事は教師よりも、子供自身が着目したこの結果である。

粘土は、その可塑性と、子供の爲るがまゝに成るといふ事の爲に、多種の形を型造るのに工合よく用

ひられる。實驗的遊び—ごく初めは、たゞいたり、まるめたり、つまんだり、穴を造つたりする—は、子供の最初の無目的な手はじめ(材料を持てする)から、意識的に自分の考を實現する(菓子、皿、人形、毬を造る事で)ように發展して行く或る提案から實現される。十分要目に連絡を持つ、粘土製作の少數をあげれば次の様である。

焼く爲のパン、菓子、パイ。お皿や、お料理をする什器。

農園の運ぶ車の爲の果物や野菜—それは造られて彩色されたもの—。雜貨店や感謝祭のテーブル。玩具店のクリスマス玩具。或はサンタクロースがストロブの側に置いて行く爲の玩具。燭臺や、クリスマスの贈物を父母にあげるのに用ふ、紙で造たエナメルで塗た計量器。彩色をしシエレクで上塗りをして春、種を蒔くのに使ふ爲の花鉢や花壺。鳥の巢と鳥。本當の遊びに使ふ爲めにシエレクで塗り、彩色した石彈。粘土は屢々お話の挿繪として使はれる、たとへば、三匹の熊の如き。

構成^{クミカタ}の紙は、その使用をはからどせる可能性の爲に、幼稚園の材料の中で最も價值あるもの、一つで

ある。紙は丈夫でしなやかで良い色でなければならぬ、そして提出される計畫は簡單で子供の興味と伴はなければならぬ。

構成に著手する前に、缺の管理を仕なければならぬ。初めの切り方はお人形の枕へ詰めるのに使ふ小さい切れぐを造る事である。それから、お家の敷皮やテールブルかけの爲に紙が房の様に切られる、又寝具や敷皮が剪られ又ナブキンが剪られて、お家ウチに使ふのに摺まれる。この時子供達は、雑誌から畫を線通りに上手に切りとる爲に充分缺を管理しなければならぬ。この事が、スクラップブックを要し、引つゞきペーヂを折たり本のカバーを造つたりする。

次の問題は、庭から種を集める爲に籠を作る事である、又、焼く爲にお鍋を、雜貨店の爲に箱や籠や、袋を、灯提、山羊の角で造た裝飾物、クリスマスツリーの爲のベル、玩具店の玩具、ヴァレンタインの封筒、春に使ふ風、花輪花火、扇、洋傘、紙人形とその衣服戸棚又衣服を入れるトランクやそろつた箱、人形の家の爲の揃た家具、或は子供達が各自で充分家具を備へ付けて箱に造た一室のお家の爲の揃た家具を造る。紙の構成は積木の代りに砂場、或はテール

ブル又床の上に、農園、市街―それらは運搬車、馬車、自動車、垣等と同様に家や小舎や店や寺院、其の他の公共建築を呼び起す―を表現するのに用ひられる。

本や籠、箱、扇、灯提、人形の著物、敷皮の如く提出された多くの問題は、適應した工夫の爲に特別な機會を與へる。

紙の構成に伴ふ法式は他の材料に用ひられたのと同様である。最初の第一歩は實驗である。考と問題がこの實驗から成長し子供達は彼等の出来上つた結果をためして見た時、或は友達や教師のすゝめに従つた時にそれを改良する。次に教師は―常に必ず子供自身の考と進歩の程度に應じるといふ事を顧慮しながら―子供達がもつと進歩した形を造る様にと補助する。

織る爲の織物や型としては、ボール紙か木で出来た機械機械―それは年長兒によつて造られる―、絲績ぎ、八本よりの絲、麻、木綿―それは子供か教師かが家から持つて來て容易い染料で美しい目立つ色に染めて幅廣な小巾に切る―がある。子供達は彼等の機械織機械を木やボール紙で造り、容易に經をか

ける。織る爲の適當な問題は、人形の家の敷皮や、人形のハンモックやマフや帽子である。紙の敷篋を造る事の困難と不十分な出来上り―それは材料の弱い爲に生じる―はもつと實際的な本當の織物に近い製法で、もつともちのよい材料を與へれば問題にはならぬ。之等實際的材料は單に子供達が、より容易く製造し得るのみでなく、その出来上つた結果が彼等の遊びの生活に役に立つ爲に、更に大なる價值あるものと見られる。しかし出来上つた結果を良くする爲に造る手間が長くかゝるのと又その方法に正確を要すといふ事から、實際的に織物をするに云ふ事は或定限内の仕事であつて、しかもそれは年長の子供に用ひらるべきである。

縫ふ爲めの織物としては、**木綿、毛織、或種の羅紗、ガス、太絲、大きな針**がある。

カードラ縫ふといふ事は多くの幼稚園で棄却されてゐる。子供が自分の考を表す爲には、それより、もつと充分塑造的な媒介物があるを考へられてゐる。しかし、組み合さつた紙を縫ふといふ事は、子供が使ふ物品―たとへば、お店ごつこの時の紙入や郵便配達の鞆等の如き、―の供給に屢々採用せら

れる。簡単な半返し縫ひ方が用ひられる。縫ふ事も亦、織る事と同様限定せられた範圍内でされる。

といふ理由は、幼稚園の子供にとつて、興味ある事ではあるが、一層緻密な筋肉を働かせる事になるからである。材料は、危険のない大さで粗末なものではなければならぬ。幼稚園の人形の要求は、最も自然で興味ある活動を持ち來す。毛織の著物、肩かけ、寝具が用意されなければならぬ、これで人形は冬の仕度が出来る。又春には木綿の著物や日よけ帽が要求せられる。子供達は屢々自分の著物の切れ端しを、家から持て來る事が出来る。著物を造る事の最初の試は、純然たる實驗から得るものである。材料が小さい形に切られ、人形の著物は屢々、あらい大きな針目で縫はれる。その結果は比較され、教師や子供達によつて評議される、そしてより善い形を見分ける方が發達するので、出来上りを追々改良する様に、他の試が引續いて起る。それで子供達が簡単な二本縫目の著物を造るのにぎぎ、型紙が必要になる。

縫ふ事は、織る事と同様、年長の子供にとつては價值ある仕事である。

構成の木材としては、**木質の柔かい種々な木材**、種々な大きさや形に切れた木片、針、膠、槌、鋸、**最初に子供達は、種々な板の片を使って道具**がある。得る或程度に達するまでは、單に切たり、たゞいたりする事で満足する。それから彼等は、簡單な物を—それは木片の形によつて屢々指示さるゝ事がある—、造る爲に木片を集めはじめ。次に材料は、目的物—それは、其時代の子供に興味あるもの—を造るのに適當な大きさに切られて箱に入れられる。子供達の問題は、彼等の個々の目的に最もよく適する木片を選んで合せたり、釘付けにしたりする事である。時々子供達は彼等の必要に合ふように板を量つたり、見たりする。注意すべき事は、木材としては、白松やシナの木の様な柔い質を選ぶ事と、木片は容易に割り得る様な薄さにすべき事である。

要目は、この材料で解決されるに適當な或問題を提出する。それは、大きい人形の爲の簡單な家具、又木箱を使って子供達が自分で造た人形の家の爲の小さい家具、人形の車、農園又は雜貨店の車、クリスマスの玩具店の玩具、小公園や遊園の裝置、鳥小舎、

苗床である。之等のものゝ多くは子供達に染められたり塗られたりする。出來上りは粗雑ではあるが、然し充分に堅牢なやうに造る。

種々な形の木や、板紙の箱、絲巻き、皺にした紙、ミルク壺の栓、等の雜多な材料は、家遊びや店遊びの構成に、又玩具や必要品の爲に、誘導的な安價な物品を提供する。此の材料を持つての仕事が、子供達を工夫に富ませ、家を構成するのに種々な材料を用ひる様に促す。他のすべての材料に於けると同様、此處にも教師は、造られる處の物は簡單な粗雑な物である事を承認せねばならぬ。仕事を持ち來す教育的價値の標準は完全な物の中にはない。子供が獨立して仕事をしたり考へたりする時に得る力の中にある。教師は自分の野心を成就させようとする爲めに、あまり子供を助けるといふ事のない様に警戒しなければならぬ。

補充材料

大きい、種々な長さの棒、珠數玉、大きなボール紙。大きい棒は、まれに畫を造る時に用ふ。子供が自分の周圍の物に就いて自分の考を表發し得るのに、よりよい媒介物は塑造や畫く事によつて更に多

くなる。然し棒は、積木や他の材料と混合してする構成の遊びに有用である。たとへば馬車の軌道を造たり人道を造たり、街燈の杭や垣を造るのに、大きな珠で構成したりする等の如き。又或時はコーヒーの實や他の大きな種を模様のように連ぎ合せる事もする、一構成られたある物の飾の爲めの設計準備として、子供達は人形の家の、壁紙や、敷皮、テープルかけや本や他の興味あるものゝ爲に染料やクレヨンやペンキでするの一番よい模様や列べ方を實驗してみる。

球の形をした珠數、正方形、一インチの直径で一インチ半の圓筒とが材料の中に含まれる。

幼ない子供に特に適する、球を繋ぐ事が初めに實驗されてその子供達の實驗から簡單な排列が生じ、一步一步と教師や子供達の評にあふ毎に種々な組立の型やリズムミク的な排列へと導かれて行く。自然材料―赤いさんざしの實や、薔薇の實、苺類、樫の實等も繋がる。或時は繩や、からの燈心草を短く切たのにつなぐ。

大きなボール紙は實驗的活動を呼び起し、常に或種類の組み合わせへと誘導する。子供達は屢々場面を

一色の釘でうづめ、垣で圍まれた牧場の爲に玩具の動物を要求する。或は子供達は釘を花として竝べて庭を造り或は考を發表する代りに、單に彼等の美の感じを満足させるリズムミクな排列をする事もある。釘は珠と同様、子供の色に就いての喜をみたす材料であつて、種々な排列の機會をあたへる。

「幼稚園訓練」より

「自分の事を自分でする」手はじめ。

自分の帽子、外套を自分で著ること、少なからも一個のボタンは自分ではめて。

大きき充分な時には、自分の上靴を自分ではくこと。

鼻や口に手を持ってゆかぬようにすること。

ハンカチーフをつかふべき時に使ふこと。

ボタンをかけること。

共有物に對する責任の手はじめ。

材料をキチンと片づけること。

自分のテーブルをかたづけ床をこさつぱりときれいにすること。

材料を無駄に使はぬこと。

共有物に對し責任を負ふべき時にはよき手助となること。

國旗を尊敬し、敬禮すること。

「キンダーガーデン、マガジン」より

○ 友人を持つ唯一の道は友人となるにあるのみ。ただ友人の家に入りたりとて更にその人に接近するを得ると云ふにあらず。(エマソン)

本會總會を今月開くことになつて居りますが、都合により、五月に開くことにいたしました。

各地方の保育界に關する御報導を願ひます。殊に此の春季には、多くの保育會が開かるゝことと思ひます。その御様子は是非ともお知らせを願つて、誌上に載せたいと思ひます。

皆さんの幼稚園、保育所等の御近状も、どうぞお知らせ下さい。いろいろの苦心も、希望も、また失敗もお互に話しあつたら面白くもあり、有益でもありませう。

幼児の教育に關する質問欄とでもいふべきものを設けませう。御質疑をお申越し下されば、誌上でお答へします。但し、あんまり六かしいことは閉口ですよと、倉橋主幹が言つて居られました。(御質問は必ず封書とし、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛にて、封筒に「質疑」と朱書して置いて下さい)。

會 告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と同じにして頂きたう存じます。例へば初め幼稚園にて御入會になり、後個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様に願上ます。整理上甚だ煩雜致しますから。

○會費未納は會計整理の上に甚だ困難致しますから確實に御納付下さいまし。向後萬一御不納久しきに互ります場合は乍遺憾雜誌發送を停止致します。

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願ひます。

○萬一本誌不着等のことがございましたら直に御一報煩したう存じます。

本誌定價

一冊(郵稅共)金貳拾五錢 六冊 前金壹圓五拾錢
十二冊 前金 參 圓 (郵券代用壹割増)

購讀申込

本誌購讀御希望の方け右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正十二年四月十二日印刷
大正十二年四月十五日發行

東京市外中野町千光前三〇三〇番地
編輯兼發行者 倉 橋 惣 三

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴 山 則 常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 會社 杏 林 舍

發行所 日本幼稚園協會